

プリントス株式会社

もっと点字を身近な存在に。

目で見えて楽しむカラー点字



■ 透明な点字は目に付きにくかった

■ ドアノブなど家庭内にも点字の設置が可能

■ カラフルな点字が晴眼者の目にとまる



3月に移転、拡張した本社

data：ぶりんとす

代表者役職名・氏名／代表取締役・堺貴弘
 設立年月日／昭和61年3月6日
 住 所／〒491-0124 一宮市佐千原垣崎61
 電 話／0586-52-5077
 F A X／0586-52-5088
 U R L／http://www.printos.co.jp
 E-Mail／office@printos.co.jp
 資 本 金／1000万円
 業 種／電気機器、工業部品に使われる各種銘板の製造
 従業員数／30人



■ 厚盛り印刷ができる3Dインクジェットプリンター

点字がどこにあるか分からない

点字をもっと身近な存在に一。看板印刷や銘板印刷などの特殊な印刷物を扱うプリントス。その中でも一線を画すのが、30年前に始めた点字印刷。駅に設置された券売機の手がけてきた。

実際に点字を読むことができる視覚障害者は、厚生労働省によれば10%に満たないという。後天的に弱視になる場合が多く、全盲でない限り何とかして自分の目で見える努力をするため、点字の識字率は上がらないのが現状だ。

識字率の問題はこれだけではな

い。従来、点字は「版」を用いて大量に生産するスクリーン印刷でしか生産できず、個人では点字の設置を断念する場合が多かった。点字の普及率を高めるためには、より安価な製品づくりが求められた。さらに点字の必要性を認知してもらうためには視覚障害者だけでなく、目が見える「晴眼者」への関心を高める必要があると考えた。

カラー点字の誕生

従来の点字は、文字が書かれた下地を生かすため透明インキを使用していた。晴眼者が一目で認識できるカラーの点字を作るために目を付けたのが、ローランド製の「UV-L

EDインクジェットプリンター」。「平成26年度補正ものづくり・商業・サービス革新補助金」を活用して導入した。インクを重ねる厚盛り印刷が可能で、これを応用したカラー点字を考案した。

現在、「おまかせ点字シール」として販売し、トイレなど家庭にあるものに貼り付けられるものを中心に11種類展開する。家電製品や生活場面などのテーマごとに分類されたシールで、必要な単語が入った商品を購入して貼ることで、さまざまなものに点字を設置できる。印刷用の版を製作し、刷っていた時と比べ、価格を10分の1以下の1980円(消費税込み)に抑えられた。堺篤史専務は「手

軽で高評価」と自信を示す。

手軽に点字に触れるために

補助金を利用し導入したインクジェットプリンターで作成した「おまかせ点字シール」は月平均30枚、現時点で約300枚を販売。スクリーン印刷で点字を印刷する場合、版代が加算されるため2—3万円の費用負担が必要だったが、10分の1以下の価格で手に入るため、売り上げは順調に伸びているという。堺専務は「手軽に購入してほしい」という思いから、家庭で使用する機会が多いことを踏まえ、アマゾンなどECサイトを中心に販売。シールにない単語でも、8000円で制作を請け負う。

点字識字率が低い要因も、家庭内など身近に触れる機会が少ないことや障害者の身近にいる晴眼者の目にとまりにくいことが挙げられる。カラー点字は両者を隔てる壁を少しでも取り払うと共に、共通の話題をつくるきっかけづくりにもつながる。そのため、より多くの人の手の届く場所に設置するボランティア精神で「需要がある限り生産は続ける」(同)と強調する。

需要がある限り作り続ける

同社は平成28年に「カラーユニバーサルデザイン」に参画。全ての人に情報が正確に伝わるように配慮されたデザインを意味し、カラー点

字もこの一つ。堺専務は「今まで点字は障害者だけのものだったが、一般の人でも目で楽しみ、興味を持ってほしい」と話す。点字の識字率が低い理由には「存在感の薄さ」がある。「周囲が認知すれば、少しは識字率に貢献できるのでは」(同)と期待する。

令和2年に東京五輪、同7年には大阪万博が控え、観光客を含めた多くの人が国内を出入りする。現在、外国語の点字シールはないが「要望があれば検討する」(同)と前向きだ。

障害者だけでなく、晴眼者も興味を持つように、ひと味加えたカラー点字を広めることで「バリアフリーの一助になれば」(同)と意気込む。